

あまり知られていない話 ～天皇杯全日本サッカー選手権大会パンフレットの表紙絵を描いた先輩～



永井 昭 (高商昭 23、経済昭 26)

1998 年頃、サッカー部の先輩である堺井秀雄さん(高商昭 7、写真是在学時)が天皇杯全日本サッカー選手権大会のポスターを描いておられたことを友人から聞きました。その時、何となく蘇ってきた記憶がありました。ユアサ電池から西武百貨店へ出向されていた堺井先輩の事務所に伺ってポスターをいただいたことです。その後 2～3 年は、先輩の方から「永井君、ポスターできたよ」と連絡を頂戴しました。もらってきたポスターは、小生が高槻で営んでいた小さなサッカーショップのウィンドウに貼って宣伝しました。

堺井先輩が天皇杯のポスターの絵を描いておられたことを知る人は、今やもうほとんどいません。この偉大な事実を風化させることなく、私が元気な内に明らかにして、お世話になった先輩のご功績を未来に残さねばと思いました。流行語の「今でしょ！」に後押しされ、確認に動き出しましたが、如何せん 85 歳の高齢ではまともに身動きとれず、所詮は他人様のお世話になることとなりました。

最初にお世話になったのは大阪サッカー協会の友人でした。快く引き受けてくださって、ご自身で堺井氏の検索の傍ら、東京の日本サッカーミュージアムの友人にまで手を伸ばしてくれました。感謝感激です。ちょうど運よく、国立競技場で天皇杯元日決戦が始まった 1969 年から 2014 年まで、46 回分のポスターが掲載された小冊子が発刊されました。国立競技場が今年限りで取り壊されることを惜しんでのことでした。その小冊子を見せていただきましたが、どれが堺井先輩の筆になるものか、こちらの記憶も不確かで、わかりませんでした。あとほどなたに尋ねれば良いのやらと途方にくれました。

またまた、女神が現われました。東京の協力者から大阪協会に FAX が入ったと連絡を受けました。その方は引き続き堺井氏の検索を続けてくださっていたようです。第 53 回天皇杯プログラム(冊子)に歴代優勝チームの感想文の欄があり、そこに堺井氏の顔写真と文章が掲載されていました。顔写真の下には(表紙絵を描いた人)と明記されていたのです。私はポスターしか知りませんでしたが、実はプログラムが作られていたのです。その表紙絵が拡大されポスターになっていたのです。プログラムは、天皇杯本戦出場の各チームと関係者に配布されたもので、我々が知らなかったのも当然でした。そして、その FAX の余白には、なんと嬉しいことか、堺井氏と津川昌治氏の関係もメモ書きされていました。「灯台下暗し」とはこのことか！ 歳はとりたくないもので、不覚にも津川氏の存在が頭に浮かんでこなかったのです。津川氏とは 40 年来の付き合いで、氏が関西サッカー協会の会長をされていた頃に遡ります。

それはさておき、早速津川さんに電話し、「天皇杯のプログラムをお持ちですか？」と尋ねると、「あるでー」とのお返事。お宅にお邪魔し、たくさん資料の中から天皇杯のプログラムを探し出すと…出るは、出るは、なんと第 52 回から 17 冊。それもそのはず、津川さんは「全国天皇杯実施委員会副委員長」を務めておられたのです。ちょうど、この 52 回から試合形式がオープン化するので、それを機に津川さんが堺井先輩に表紙絵を依頼されたそうです。その後、1992 年(第 71 回)に天皇杯の宣伝広告を大手広告代理店に移すまで 19 年の長きにわたり、継続して描き続けていただいたというお墨付きまで頂戴しました。これで、今まで不明だった部分が解明され、堺井大先輩の偉業が証明されました。

お借りした 17 冊のパンフレットの重さも何のその、足取り軽く(実はヨタヨタ)家へ辿り着いて、隅から隅まで目を通しました。「これは学院にとっても大きな発見で、後世に残す価値があるのでは」と思い、数冊を学院史編纂室に持参したところ、大変な評価をいただきました。そこで、何とか津川さんをお願いして、パンフレットを関西学院に寄贈していただくよう、これから一生懸命、誠心誠意努力する覚悟であります。ご期待ください。

